

熊本県立荒尾支援学校進路便り
わーく & らいふ

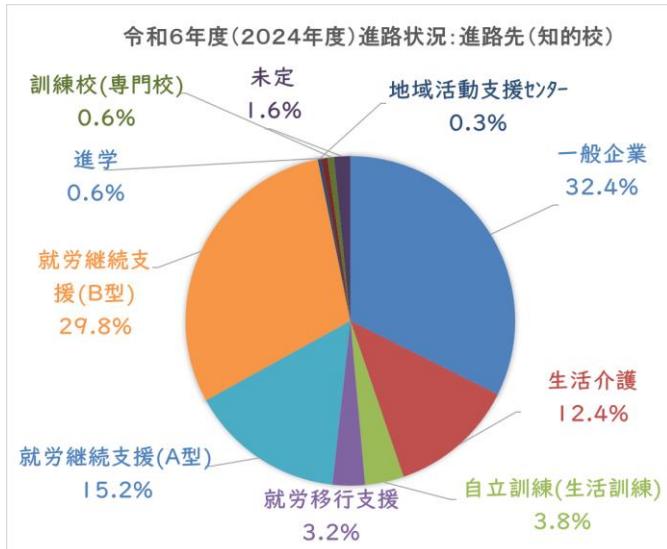
令和7年度 第2号(通巻第102号) 6月27日発行

■CONTENTS■

【トピック】令和6年度特別支援学校卒業生の進路状況

熊本県下にある特別支援学校では、進路指導の充実に向けた情報交換の場として「進路指導主事連絡会」を定期的に開催し、福祉や就労に関する最新の情報、各学校の実習先、新しい施設、障がい者雇用に積極的な企業情報等を共有しています。先日第1回会議が開催され、下表のとおり知的障がいのある生徒が学ぶ特別支援学校における令和6年度卒業生の進路状況報告がありましたので紹介します。

■進路先について



県全体では、多い順に左の円グラフのようになっています。

特別支援学校から企業等への就職は32.4%(102人)と昨年度より若干減ったものの高い傾向にあります。特に高等支援学校3校(ひのくに高等支援学校、熊本はばたき

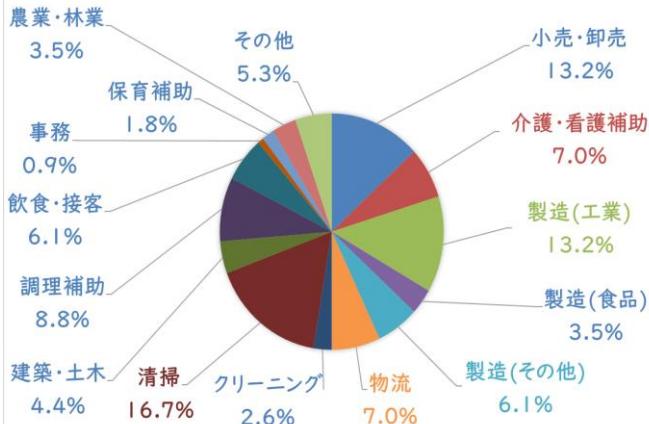
高等支援学校、鏡わかあゆ高等支援学校)だけで76人の就職者があり、全体の75%近くの割合となっています。

一方、本校の進路状況は、「就労継続支援(B型)」、「生活介護」、「就労継続支援(A型)」、「企業等への就職」の順となっています。昨年度は特に「就労継続支援(B型)」のサービス利用者が多かったのが特徴でした。

■「企業等への就職」における業種について

下の円グラフのように様々な職種で働いている卒業生がいます。「清掃」や

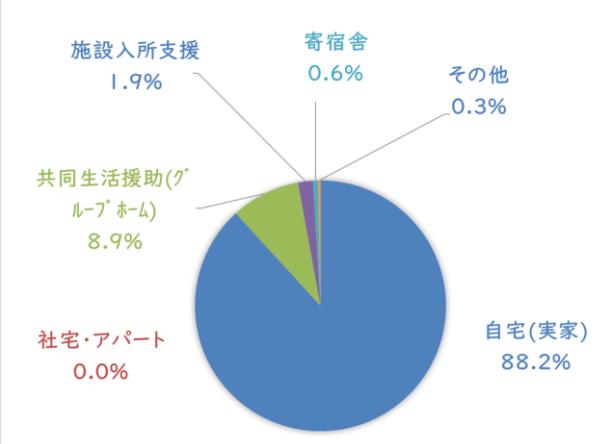
令和6年度一般就労者の業種別分類【知的】



「製造(工業)」は例年高い割合ですが、「保育補助」や「事務」の割合が年々増えてきています。在学中の現場実習において、それぞれが希望する企業とマッチングすることで企業等への就職につながっています。

■卒業後の生活の場について

令和6年度(2024年度)進路状況:生活の場【知】



左の円グラフのように「自宅(実家)」が90%近くを占め、「社宅・アパート」は0%になっています。本校の卒業生の中には卒業後、数年経ってから一人暮らしをするため、アパートを借りた人がいます。卒業という大きな環境の変化を踏まえ、職場環境や仕事内容に慣れてから生活の場を変えました。

「共同生活援助(グループホーム)」と「施設入所支援」の違いについて

- 「障害者総合支援法における『障害支援区分』」で利用可否が決まる
- 「共同生活援助(グループホーム)」はそこから働く場に通うが、「施設入所支援」の多くは、その中に働く場や余暇を過ごす場がある

進路に関する疑問や質問等ありましたら、担任を通じてご質問ください。